

事務事業名		公社造林事業		所属部	農林振興部	所属課	林業振興課	
総合計画体系	政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	林業・鳥獣対策G	課長名	内田 俊行	
	施策名	〈35〉林業の振興		担当者名	伊藤 恭将	電話番号	0854-40-1056 (内線) 2413	
	目的対象	市内の森林	意図	適正に森林を整備、保全し、森林資源を活用する。				
	基本事業	〈101〉適正な森林管理		予算科目	会計 0:130 款 0:1 項目 1:035 中事業 0:1	大事業名	公社造林事業費	
目的対象	市内の森林	意図	適正に管理する。				中事業名	公社造林受託事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
公社分収造林地、市内森林所有者等	公社分収造林地の適正な管理をする。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	雲南市・県林業公社・森林所有者の3者で50年間の森林整備を目的とした分収造林契約書に基づく造林地の保育等を行う事業。 現在、契約期間を50年から約30年延長し80年間とする変更契約業務も実施している。また、条件が整った事業地から収穫事業に取り組むため、所有者説明会も実施している。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R4年度実績(R4年度に行った主な活動) ・公社造林事業受委託 ・事業発注(事業委託) ・事業検査 ・事業費の支払い ・実績報告 ・分収造林変更契約 ・土地 使用、解約承諾 ・収穫事業、林業専用道開設事業地元説明会	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 事業発注方法の効率化や造林地の現況調査を実施し、 実態に即した施業の実施、搬出間伐の促進、効率的な作業道の開設を図っている。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 公社造林地整備面積	ha	113.6	97.6	47.6	41.4
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)		② コストの推移		単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
【公社造林保育事業】		財源内訳	国庫支出金	千円				
■ 保育間伐	施業面積: 23.37ha 事業費: 4,839千円		県支出金	千円				
■ 搬出間伐	施業面積: 24.31ha 事業費: 9,703千円		地方債	千円				
■ 事務費	17千円		その他	千円	26,336	27,140	14,542	10,912
■ 事業費計	14,559千円		一般財源	千円	82	72	17	82
		事業費計		千円	26,418	27,212	14,559	10,994

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	公社造林地23.37haの保育間伐及び24.31haの搬出間伐を実施することにより、造林木の成長を促すとともに、表土に適度な光をあてることにより、下層植生の成長による土壌流出の防止を図った。また、利用可能な区域については間伐木を搬出し、資源の有効活用にも努めた。
② 事業実施するうえでの課題	材価の大幅な低下により、林業公社の経営は非常に厳しい状況にある。そのため、必要な事業を全て実施することは難しく、満足な施業が必ずしも実施出来ていない。また路網整備が必要な事業地が多く、利用事業に取り組むことが難しい状況である。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・林業公社と連携して、事業地の調査・評価を行い、年次計画に沿った事業発注や木材の利用を含めた適切な事業実施を図っていく必要がある。 ・林業公社を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況である中、第5次経営計画(R元～R10年度)に基づく経営改善に取り組むこととなっているが、その動向を注視していく必要がある。